

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 12 月 19 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270201744		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ		
所在地	〒857-0028 長崎県佐世保市八幡町 1-2		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 10 日	評価結果市町受理日	平成 24 年 1 月 6 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-801 長崎県島原市高島 2 丁目 7217 島原商工会議所 1 階
訪問調査日	平成 23 年 12 月 9 日

【ユニット1】それぞれのペースでゆったりと、安全に安心して生活を送って頂けるように個々に合ったケアを念頭にサービスを提供し、また、アニマルセラピーとして2匹の犬を飼っており、犬とのふれあいを通じて利用者様同士のコミュニケーション促進が来ている。

【ユニット2】産地直送で旬の野菜を毎日の献立に取り入れ、一人ひとりの嗜好や栄養バランスを考慮した上で楽しんで食事ができる工夫や、時には利用者と一緒におやつ(おはぎや、団子)作りをして楽しんでいる。

【ユニット3】手作りの喜びを感じて頂けるために、皆で楽しむゲーム、カード合わせ作製、清潔感と使いやすさを活かした共有スペースに空き箱を利用したペーパータオルケース設置、オムツ使用の居室には空き箱で利用者と一緒に屏風を作り、人目につかないように気配りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

グループホームの全体理念「あったか家族」が各ユニットごとのスローガンと一緒に感じ取れる事業所である。秋祭りには、利用者と子供が親子でお酒を嗜まれたり、遠方の利用者の妹との再会を家族と協働して実現させたり、入浴拒否や服薬拒否も家族の協力を借りて、利用者の希望の実現や関係構築に努められ利用者の笑顔につながっている。また、職員との「絆」も大事にされており、利用者の職員の姿を追う目には『子供と親』の関係が感じられ、会話をされているときは心地よい言葉のキャッチボールでその場が和む光景もあった。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「明るく・強く・正しく」に基づきGH全体理念「あったか家族」を掲げている。本年度ユニットスローガン「心ふれあい助けあい安らぐ我が家」利用者・職員共その人らしく支えあえる関係を築いている。	それぞれのユニットのサービス提供に家族との連携や協働の成果を窺い知ることができる。また、利用者や家族、職員の思いがひとつになり、取り巻く環境がホーム理念の「あったか家族」の具現化につながっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方へ、季節ごとに開催する「歌声喫茶」のチラシ配布を行い、交流を図ることができるよう参加の声をかけている。また、地元の小中学生の福祉学習を受け入れたり、近所に住む子供たちが施設で飼っている犬の散歩をしてくれたりする中で、地域との交流を図っている。	事業所が隣接している山手地区では、ここ数年「徘徊模擬訓練」の取り組みをされており、今年には市長や地域包括センター職員、学生、福祉事業所職員など総勢100人以上の参加がある。当該事業所からも1人の職員が参加され、参加しての気づきや福祉現場の体験などを地域の取り組みに活かし、地域と共に歩む姿勢が窺えた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の中で、お尋ねがあった際には個別に認知症の人の支援方法など伝達してきたが、積極的にはできていないので、今後の課題としてGH行事などの折に情報提供できる場を考えていきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では施設側からの一方的な報告になってしまわないよう和やかな・意見が出やすい雰囲気作り心がけている。その中で行事や勉強会報告などを行い、参加していない職員には議事録を回覧し、参加者からの意見を受け止め、日常のケアに活かすようにしている。	現在、全職員に対して運営推進会議の議事録を回覧して参加メンバーの視点や意向等の把握につながっている。今後は利用者の家族等にもたより「サクサク」と一緒に運営推進会議の報告の取り組みも前向きに検討されている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス提供する中で疑問点が生じた時には、行政担当者へ確認を取るようになっている。また、運営推進会議に参加してもらい日常生活の様子や施設での取り組みについて報告している。	運営推進会議の延長線上に双方の気づきや学びの機会につながる情報の共有や提供がある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会・研修を通じて、身体拘束の概要を学んでいる。玄関にはセンサーを取り付け、日中は鍵をかけることはない。ベッドから転落の危険性がある利用者に対しては、夜間の体動パターンを観察し、臥床姿勢の工夫・クッション・枕を活用し、対応してきた。	身体拘束をしないケアに関しての学びの機会づくりは法人内外に関係なく取り組まれている。又、事故やヒヤリハット場面にも着眼されているが分析や観察、検討が一方から偏りがちである。	更に、身体拘束の場面对応拘束として検討されることも重要である。利用者の状況と環境、生理学などの観点から検討され、質の高いサービスの提供を目指されることに期待したい。

7	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を開催し、虐待の種類・具体例・職員のストレスケア等について学んだ。また、併設の老人保健施設にて開催される身体拘束委員会に参加し、知識の習得に心がけている。利用者の身体状況の変化に気を付け、職員同士、意見交換を通じ特定の職員に過度の負担がかからないよう適切なケアに努めている。</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し、権利擁護にまつわる制度について学んでいる。現在これらの制度を利用するには至っていないが、今後必要性が生じたら、活用できるよう支援を行っていききたい。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に、家族（主介護者）と職員が契約書・重要事項説明書を読み合わせ、疑問点に対しては十分説明を行い、その都度解決できるようにしている。</p>		
10	6 <p>運営に関する利用者、家族等意見の反英</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族の方たちが、意見や不満を伝えやすいよう、玄関に意見箱の設置や、アンケート調査を実施している。また、普段のコミュニケーションの中で意見や提案がないか確認するよう心がけている。</p>	<p>家族同士で連絡を取り合いたい意向の方もあるので、現在の事業所主催の家族会運営の見直しを全家族に問いかけ、家族が運営する家族会組織づくりの提案を検討されている。</p>	
11	7 <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>勤続年数・経験に関わらず、すべての職員が意見や提案を言いやすいよう、スタッフ会議・カンファレンスの場を設けている。</p>	<p>職員意見等の伝達・対応体制は確立されており、経営陣である副施設長も運営推進会議や外部評価などにも真摯な態度で臨まれ、現場職員との意見交換の機会につながっている。</p>	
12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の得意分野をうまく活かせるよう仕事を割り振り、やりがいをもって仕事を続けられるよう環境整備に努めている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GH連絡協議会・市主催の研修などに職員が参加できる機会を持ち、また月1回GH内の勉強会や併設の老人保健施設での勉強会に交代で参加しスキルアップを目指している。</p>		

14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会に参加し、他施設GH職員との交流や情報交換を行っている。また、他施設へ研修・見学に行く機会を作り、良い刺激になるようにしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>慣れない環境の中で少しでも不安要素を取り除けるよう、入所前収集した情報をもとに、利用者とはゆっくり話をし、信頼関係を築けるよう取り組んでいる。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前収集した情報をもとに入所契約時に家族の方ともゆっくり話をし、疑問点などあれば随時相談してもらおう伝え、安心して施設サービスを利用できるよう努めている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所前に整理しておいた利用者情報を職員全員が回覧し、必要としている支援を把握し提供するようにしている。必要に応じて他事業所・他機関にも連絡・調整を行っている。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入所者の皆さんと日々楽しくかつ安全に過ごしていただくよう、コミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。</p>		
19	<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との連携を図ながら利用者の気持ちを汲み取り家族関係を大切にしている。また、家族会や行事参加の時はご家族の方と楽しく過ごすことが出来るよう雰囲気作りをして家族の絆を大切にしているようにしています。</p>		
20	<p>8 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みや縁のある場所・昔住んでいた場所などを会話の中に取り入れれたり、職員と共に思い出の場所（住まい・職場・以前利用していたデイケアサービスなど）へ時々訪れるようにしている。</p>	<p>今年の秋祭りの出来事であるが、家族から「親は酒が好きなので、一緒に飲んでも良いですか」と久しぶりに親子でビールを嗜まれ楽しい時間を過ごされている。又、毎朝6時に親子で散歩するのを日課とされるのを支援され、絆の継続を大事にされている。</p>	
21	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>相性が良い人・会話がはずむ人同士を近くの席にしている。周囲との関わり合いを持ちにくい利用者には、職員が間に入り、他利用者との仲を取り持ち、孤立せずに過ごしていただけるよう努めている。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も、その後の様子を家族や他事業所職員から情報収集するよう努めている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>個々の意向を把握し、利用者が望む生活ができるよう努めている。意思表示が難しい方は家族から聞き取った昔の情報や家族の意向をもとに、希望に合った生活ができるようにしている。</p>	<p>観察やコミュニケーションを活かして思いや意向の把握をされている。又、家族からの情報も参考に利用者向き合い、様子観察を通して本人の意向に近づけられている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前と入所してから早い段階のうち利用者・家族からの情報を収集し、昔からの生活が少しでも送れるよう、生活環境を整えるようにしている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとり利用者の方の以前の生活リズムに沿った支援ができるよう心がけた。今後それぞれの利用者がある力についてさらに掘り下げて考えていきたい。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、利用者の状態を深く観察し、家族へ近況報告と共に意向の確認を行なった上で職員同士話し合い、利用者にとって必要な介護計画を作成してきた。</p>	<p>介護計画書作成に向けて、事前に利用者担当職員による利用者のカンファレンスの取り組みを、アセスメントシートに追加され、ケアカンファレンス会議で全職員の気づきやアイデアなどを取り入れ介護計画のたたき台が作成されている。その後、家族等に説明・同意を得られて介護計画の作成につながっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>普段の気づき・取り組みは個別の介護記録へ記入している。3ヶ月に1回作成した介護計画をもとに、カンファレンスを開き、利用者の現状とこれから3ヶ月の支援計画を職員間で話し合いケアの実践につなげてきた。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の心身レベルに合ったサービスを的確に提供できるよう心がけ、柔軟な対応で他部署とも連携してきた。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近所の方や民生委員の訪問が時々あり。現在もどのような地域との繋がりがいいのか把握に努めている。訪問時は必要に応じて職員が利用者との間に入り、コミュニケーションが円滑にできるよう心がけてきた。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関との連絡体制を整備し、24時間必要な医療行為・主治医からの指示を受けられる体制をとっている。本人・家族が医療機関を指定された場合には、希望にそえるよう連絡・調整している。</p>	<p>花ぞ野診療所が窓口となった医療連携体制である。利用者の日常の健康管理体制として、FAX通信による毎朝の看護現場への医療に関する報告等と夕方には看護現場からのアドバイス等のやりとりで情報の交換・共有に繋がっている。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々利用者の体調は変わっていくため、細かい外傷や体調の変化であっても逐一職員同士で確認し、毎朝の診療所からの看護訪問の折に、看護職員へ伝達・指示を仰いでいる。すぐに対応してもらえよう日頃から情報提供に心がけている。</p>		

32	<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の方の治療経過・身体状況の変化の把握のため、入院先の担当者へ随時連絡をしている。その際に得た情報は職員全員に伝達し、いつ退院・再入所されても良いよう状態に合った受け入れ環境づくりに心がけてきた。</p>				
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約の段階で、重度化した時の対応・看取りの指針について説明を行っている。医療・介護双方の連携・対応について、状況の変化に応じ随時利用者・家族との話し合いを行っている。</p>	<p>事業所での対応が困難な場面では、医療関係者や家族等との話し合いをおして適宜対応されている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>毎月勉強会・研修会を行い、GHにて想定される様々な場面での事故や急変時に対応できるよう、知識・技術の習得に取り組んでいる。また、急変・事故発生時の連絡マニュアルを作成している。</p>			
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に火災避難訓練を実施し、全職員が交代で参加している。地震・水害については避難方法を学ぶべく今年12月に当ユニット主催の勉強会を開催予定である。災害時のマニュアルを作成し、非常持ち出し袋も事務所に常備している。</p>	<p>毎年4月には電気・水まわりの自主防災の取り組みをされており、他にも2ヶ月に1回担当者を決めて利用者と一緒に、想定内の自主訓練をされている。法人内グループではあるがバックアップ体制作りもできている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>日頃から人格を尊重した言葉遣い・対応に配慮している。それぞれの利用者が好まれない話題を把握し、状況に応じて、利用者名が特定されないよう小声で居室番号を用いて伝達している。</p>	<p>新任職員ある時はその都度現任職員も一緒に接遇研修を開催されており、定期的に年に1回の接遇研修の取り組みをされ、業務の振り返りや意識づけにつながれている。個人情報に関する記録物等は、特定の場所に適正に管理・保管されている。</p>		
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>例えばお菓子や居室用の花を購入したい・コーヒーを飲みたい・米飯ではなくパン食にしたいという思いに耳を傾け、応えている。希望の表出が難しい方には、簡単な質問形式で自己決定を促している。</p>			
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>誕生日には利用者の方の希望を聞き、職員と一緒に外出している。食事の時間を送らせたい時には体調不良の有無に配慮して対応している。また他のユニットに行く時は、声掛けして、気分転換も取り入れながら支援を行っている。</p>			
39		<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>化粧することが好みであった方には職員が化粧をしている。若い頃から長髪が好みであった方は長髪のまま、ヒゲを伸ばしたい方には納得がいくまで伸ばしてもらい、決まりを作らずその方らしさを尊重している。</p>			

40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>高齢者が好まれる家庭的なメニュー・味付けに配慮し調理し、個々に合った形態（粥・刻み・ミキサー食など）で提供している。利用者の方にテーブル拭き・配膳・盛りつけ・道具を使わない簡単な皮むきなどを手伝っていただいている。</p>	<p>利用者と職員が同じ食事で食卓を囲み、利用者と共通の会話を挟みながら楽しい食事環境づくりに配慮されている。利用者の様子に配慮した声かけや見守りは、穏やかな時間と本人のペースが活かされた支援である。又、食器に陶器製品が使われており、家庭の延長線上の環境作りをしている。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>各利用者が持参されている湯呑みに目盛りをつけ、1日の水分摂取目標に向けて飲水を促しているが、日によって達成できない時がある。食事に関しても栄養バランスに配慮したものを提供し、1日の食事摂取量を記録に残し、ケアに活かしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>1日3回口腔ケアは、自立で困難な方は介助で行い、自立の方は声かけを行い、清潔保持に努めている。また、歯科治療が必要な利用者は歯科受診の支援を行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一定の時間ごとに、利用者の方へ声かけをし、トイレ誘導を行っている。必要に応じて尿量測定を実施、看護師へ報告・相談をしている。自立度が高い方には残存機能を活かした排泄ができるように促している。</p>	<p>オムツではなく、本人の希望も取り入れて、ベッド上で尿器を利用した排泄支援をされた時、利用者の「あ～、すっきりした」と満足した歓喜の声を頂かれた経験を持たれている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防のため、水分摂取を促している。また、必要に応じて腹部マッサージを実施してきたが、薬剤で対応することが多くなっている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回曜日を決め、入浴を実施。職員の体制上、都合がつかない日のみ日にちをずらして対応してきた。浴槽に入ることができる方はゆっくり入ってもらい、それぞれに合った入浴ができるよう心がけ、支援している。</p>	<p>事業所を開設する時点では、介護度の低い人が対象であったこともあり、広めの浴槽で贅沢感や開放感が味わえる仕様で、現在の介助動作までは想定外であった。介護保険法の改訂等で、対象者が緩和されたこともあり、利用者の状態によってはシャワー浴に至らざるを得ないこともあり、少しでもシャワーで温まってもらえるよう浴室を温め、本人が前面シャワー、職員が後部シャワーで対応されている。他に、職員が湯ぶねに足だけ入り、浴槽に浸かれる支援につながっている。</p>	<p>利用者の介護度や状態の進行を考慮し、今後を想定した対策の検討が必要な時期ではないだろうか。現場職員の意見や利用者および家族の意見が反映され、利用者の尊厳も大事にされた見解等に期待したい。</p>

46	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中も希望者には昼寝をしていただいている。馴染みの寝具を持ち込んでもらい、それぞれの睡眠パターンに合わせた時間に入床を促している。</p>			
47	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の目的や副作用など、随時看護師に尋ねたり、薬の本で調べるようにしている。また薬を間違えて飲ませないよう、台所に壁掛け式のポケットを設け、セットする人・与薬する人の2重チェック体制を取っている。</p>			
48	<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>週1回全ユニット合同でレクリエーションを行っている。また3ヶ月に1回「ほのぼのカフェ」という地域交流を兼ねた行事を開催している。以前からの趣味や残存能力を活かし、役割を持って生活していただいている。</p>			
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候や利用者の体調を確認し、利用者の方と散歩に出かけている。また、季節に合わせた行事を企画し、全員での外出を随時行っている。</p>	<p>事業所から車で数分のところに公園やショッピングセンター、市民会館に面したスイーツ店で好みのものを選び、店内で飲み物のサービスを利用しながら、喫茶や人の動きを通して楽しめる機会づくりをされており、社会性と五感に響く支援につながれている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が可能な方には、自分で管理してもらい、欲しい品物は買い物日に購入してきている。管理が困難な方は、家族からおこづかいを預かり、職員全員で出納帳をつけ管理している。月初めには前月の領収証・出納帳を家族へ渡している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者本人が望めば、いつでも電話をかけることができ、家族からの電話の取次ぎも行っている。手紙の代筆・投函も行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者本位で考え、不快にならないよう掃除など環境整備を行っている。また、利用者の方が住みやすい環境づくりに心がけ、季節感の工夫をしたり、家具の配置にも安全性を配慮している。</p>	<p>事業所独自で環境について項目分けした来訪者向けのアンケート調査を実施されており、アンケートの回答を分析・検討され、結果報告の準備をされていた。事業所側の感覚や価値観による一方的な目線に、第三者の気づきや意見を交えながら、より良い環境づくりを目指されている事業所の前向きな姿勢が窺える。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士で楽しく生活していただくため、居間のテーブル・ソファの配置など工夫して、随時職員が間に入り仲良くしてもらえよう努めている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に利用者・家族とじっくり話をし、使い慣れた家具や洋服を持ち込んでいただき、個人の特色を活かした居室作りに取り組んだ。各居室のドアには職員手作りの表札を掲示している。	利用者の心身の状態や動線を考慮した調度品の配置をされている。又、持ち込み品にも本人との絆が窺える写真やお位牌等があり、孤立感を少しでも和らげる工夫となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者・家族・職員で話し合い、それぞれの心身レベルに合わせた居室環境づくり（転倒防止のため障害物の撤去・目印の設置など）に努めてきた。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様・職員が一体となって、家族のような自然なサポートをさせて頂く事を目指し、毎年度スローガンを掲げ、笑いが絶えない明るいアットホームなユニットを目標に「笑いの笑・仲間の輪・なごみの和」としている。毎日朝礼で読み上げる事で、理念を共有している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回の市民大清掃への参加、年4回「ほのぼのカフェ」開催し季節を折りませたイベントや手作りおやつを提供を行い、地域の方をおもてなしする事で地域住民の方々と触れ合い、日常的な交流を積極的に取り入れている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学校の職場体験を受け入れており、福祉と直接関わる機会を設けている。福祉の現場で子供達が素直に感じ考え、家庭へ持ち帰り、学校では新聞の発行をする事で地域への発信源となっている。又、福祉に関心を持たれている方々のボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・民生委員・他事業所・ご家族等が参加されている。各々が自己分野を活かした福祉に関連する様々な最近情報を提供し、共有する事で、福祉全体のレベルアップになっている。又、家族様の生きた要望・意見を聞く事ができ、参加機関全体で検討することで、入居者様のサービス向上・家族様の安心に繋がっている。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の講習会へ参加、運営推進会議にも地域包括支援センターより職員が参加され、意見交換を行っている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員が中心に勉強会を開き、また外部での講習会に参加し知識を高め、安易に拘束に至らない様に努めている。離設者に対して玄関等を施錠せず、落ち着かれるまでお散歩に出かける等、ご本人の要望が尊重できる様に支援している。		

7	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部・外部での講習会に参加し、知識を高め、理解・把握した上で入居者様を支援している。また、日常的に職員間でカンファレンスや声掛けをする事で職員がお互いを客観的に見る事ができ、虐待防止につながっている。</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部での研修に参加し、学んだ内容を持ちかえり、スタッフ間で権利擁護に関して知識を高めている。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時、ご家族・ご本人に契約書・重要事項についてご説明を行い、同意をいただいた上でサービスの提供を行っている。</p>		
10	6 <p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話での相談・意見が出た際は、ご要望に沿った支援ができるように職員間で話し合い統一した支援を心がけている。また、定期的に第三者機関の介護相談員がこられ、貴重なご意見をもらい反映に努めている。</p>		
11	7 <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者と職員との面談を設けており、直接意見交換や提案の場を設け、運営に活かしている。</p>		
12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年一回自己評価表の提出・昇給、資格取得者等への評価、また母体施設と合同での慰安旅行・暑気払い等企画により、職員間の交流を深め働きやすい職場作りとやりがいの向上に繋がっている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修参加希望者により、積極的に参加し研修報告書を元に参加されていない職員への伝達により、全体的に知識が高まり、また毎月の勉強会を開催しており、学んだ知識と技術を業務に取り入れている。</p>		

14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の講習会に積極的に参加しており、知識を高めるだけでなく、他事業所との交流の場となっており、また他事業所の運営推進会議へ参加し取り組み内容等を知る機会となり、意見交換の場ともなっている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人の生活歴や嗜好の把握により、これまでの生活を尊重した支援を大切にし、ご本人の要望を傾聴しなじみやすい環境作りに努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の意見や相談を聞き、支援につなげていけるように、詳細を経過表等へ記載し情報の伝達・共有を行い、きめ細やかな対応に努めている。面会時は状況報告をこまめに行い、ご家族との連携を大切に行っている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族・ご本人の要望・意見を元にサービスの提供を行う上で必要な福祉用具や住環境の整備を行い、支援内容も関わる中で、ご本人のペースと要望を尊重しながら対応している。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>アットホームなユニットを目指し、ご本人にとってくつろぐ事が出来ている。環境や雰囲気作りに努め、またご家族の協力も頂けるように日ごろより連携を密に行っている。</p>		
19	<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>認知症の進行・体調面での不安感への想いを傾聴し、少しでも不安が軽減できるような情報を提供し面会時・電話にてこまめに状況報告を行えている。</p>		

20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みのある美容師に来ていただいております、またデイケア利用時の旧友が訪問される為、ゆっくりお話ができるよう配慮しています。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>フロアテーブル席の配置やレクリエーションを取り入れ、日中はフロアで他入居者様同士が交流が図れるように、雰囲気作りや環境に配慮しています。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も必要に応じて、情報の提供を行っている。併設施設へ移設された方は、時折Gホームで仲良くされていた方を連れて訪問し交流を図っている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日頃から、些細な事でも職員に対して話しやすい雰囲気や頼れる存在を目指し対応している。そして、ご家族の介入や協力を求める事で本人の気持ちを尊重したケアが出来ている。</p>		
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>趣味や生活歴を伺い、普段の生活の中で生かせるように配慮している。生け花教室に行かれてた方にお花を生けてもらったり、農家だった方には、庭弄りを行う等、一人一人にあった支援が出来るように心がけている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の生活リズムを優先にし、また健康状態に配慮し無理強いせず利用者様に同意を得ながら、日常生活をサポートし、出来る範囲で役割を持ってもらい、日々を過ごしていただいている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>常に問題意識を各職員が持ち、一人一人の入居者様への状態把握に努め、快い生活が送れるように職員一同介護計画を見直ししながら、日々努力している。また、入居者様・ご家族のご要望が反映できるよう介護計画書を作成し、実行に努めている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>カルテ・経過記録表・業務日誌・申し送りノートに詳細を記録している。また業務に着く前に業務日誌等に目を通し、情報を把握また時差出勤した職員には、申し送りをを行い、介護への質の向上に努めている。</p>		

28	一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれ るニーズに対応して、既存のサービスに 捉われぬ、柔軟な支援やサービスの多 機能化に取り組んでいる	入所者様の一人一人のニーズ に添い、気分転換も兼ねて買 い物・ドライブ等に出かけて いる。またご家族の状況に応 じて、病院受診の付き添い、 定期的にかかりつけ医に見て もらい、病状の悪化を予防で きるように支援している。		
29	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域 資源を把握し、本人が心身の力を発揮し ながら安全で豊かな暮らしを楽しむこと ができるよう支援している	各行事には、地域の方々の参 加や必要物資をお借りし行事 を地域の方と一緒に楽しむ事 が出来ている。		
30	11 かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつけ医と事 業所の関係を築きながら、適切な医療を 受けられるように支援している	月二回往診時に状況報告い、 往診日以外でも、急変時には 主治医が往診し迅速な対応が とられている。また、身体状 態により主治医が専門医の必 要性を判断した場合は、受 診・入院先の医療機関に情報 提供を行い、適切な医療行為 が受けられるようにサポート している。		
31	看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとら えた情報や気づきを、職場内の看護職員 や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の 利用者が適切な受診や看護を受けられる ように支援している	ほぼ毎日診療所より看護師の 訪問があり、状況報告を行っ ている。24時間連携がとれる 体制ができており、指示を 仰ぎ対応ができています。体調 不良が見られる方は業務日誌 に記録し、FAXして情報提供 する体制も整えている。		
32	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療で きるように、また、できるだけ早期に退 院できるように、病院関係者との情報交 換や相談に努めている。又は、そうした 場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	併設に花ぞ野診療所があり、 24時間体制で連携をとり、 急変時においても協力病院と の連携がとれており、迅速に 対応できている。		
33	12 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し 合いを行い、事業所でできることを十分 に説明しながら方針を共有し、地域の関 係者と共にチームで支援に取り組んでい る	入所手続きの際、看取り介護 について説明し、必要に応じ て主治医・ご家族・担当ケア マネと協議しご本人、ご家族 の要望に沿うように対応して いる。		
34	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、 全ての職員は応急手当や初期対応の訓練 を定期的に行い、実践力を身に付けてい る	内部・外部の講習会により、 学ぶ機会を設け知識を高め、 迅速に対応できる様に行っ ている。		
35	13 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を全職 員が身につけるとともに、地域との協力 体制を築いている	年2回消防署要請しており、 消防訓練・救急処置の訓練を 行っている。また二ヶ月毎 には、自主防災訓練を行い、日 ごろより意識を高め、迅速に 対応できるように訓練をおこ なっている。		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴や家族構成等の把握により、その方の要望に沿った支援を心がけ、生活の中でも敬意をもち対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや行事、体操の参加等、無理強いすることのないよう心がけつつ声掛けをしている。日常生活で、常に本人の意思尊重をするよう配慮し、会話の中で思いや希望を汲み取る事ができるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアで過ごすのか、居室内で過ごすのか等、本人の思いのままに生活して頂けるようにしている。日中の活性化の為声かえしてフロアへお誘いすることもあるが、その場合も本人の意思を尊重するように心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の洗面や整髪等、一人一人の状況に応じて声かけをしたり介助したりして行っている。洋服など、自分で選べる場所に置き、本人と職員が一緒に選べる環境を作っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しメニューに取り入れたり、誕生日会や行事食にはご本人の好物や季節感のあるものをお出しするようにしている。又、個々の状態に応じて家事を一緒にして、交流の時間や生活リハビリの時間としている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・飲水量を記録し適切に摂取できているか把握出来るようにしている。又、一人一人の状態に応じて食事形態を考慮したり、嚥下機能訓練をする等して、安全においしく召し上がって頂く支援を行っている。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、スタッフが付き添い、必要に応じて見守り・介助を行い口腔ケアをしている。また、義歯の不具合がないか食事中・口腔ケアの際お尋ねし、ある場合は歯科受診できるように支援している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>便意・尿意の訴えのある時に必要に応じて介助、見守りを行い、トイレもしくはポータブルトイレでの自立した排泄が行えるように支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事に乳酸菌を多くつけるようにし、副食に野菜を多く取り入れ便秘の予防を心がけている。また、散歩や体操の働きかけをしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回入浴日で、拒否のある時は順番の変更やシャワー浴・清拭等で臨機応変に対応している。拒否が続かれる時は、曜日関係なく入浴介助を行い、清潔が保てるように支援している。又ゆっくりと入れるような雰囲気心がけている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中も午前・午後と数時間、心身共に負担をかけないように休息して頂き、また入床前にはココア等ナイトミールを準備して、ゆっくり休んで頂けるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ナースにより作成された内服薬の一覧表を資料として把握に努めている。また新たに処方された薬はホワイトボードに記載し、職員間で情報を共有し、把握に努めている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご本人・ご家族より頂いた要望を普段の生活の中に取り入れ、家事への参加やお花・歌等のレクリエーションを行い、本人の生きがいや張りのある生活を送って頂けるように支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>普段の買い物時に、希望される方は買い物同行を支援している。また、介護保険更新時には極力、ご本人と一緒に市役所に行き手続きを行っている。遠方への外出希望時は、ご家族へ協力を頂き、ご本人の要望に沿えるように支援している。</p>		

50	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理は、Gホームで行い出納帳に記入し、月末にはご家族へ出納帳のコピーと領収書をお渡ししている。買い物時は、自ら選び支払いが出来るよう支援している。</p>		
51	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を掛けたいと希望される時は、ダイヤルして電話相手へ説明を行い、お話をしている。</p>		
52	19 <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>レクリエーションで作成した季節感あふれる貼り絵の提示や、お庭には各季節の花や野菜を植え、フロアーにも花は絶やさず飾り、和んで頂ける空間を大切にしている。また、混乱を避け場所場所に名札を作り、居心地よく過ごせるように支援している。</p>		
53	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う利用者同士のテーブルの配置や、生活感を取り入れてテレビやソファを置きゆっくりくつろげる空間を設けている。</p>		
54	20 <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各家庭より、これまで使い慣れた家具や装飾品を持ってきてもらい、また居室にも季節感あふれた手作りの物や行事の写真を貼るなど居心地よく生活が送れるように工夫をしている。</p>		
55	<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行器置き場がわかりやすいようにテーブルを張ったり、衣類の清潔・不潔が付きにくい方には、洋服入れを準備するなど、一人一人の状況に応じて対応が出来る。</p>		

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「明るく 強く 正しく」、グループホームホ理念「あったか家族」ユニット3 スローガン「笑顔の花咲くユニット3」を掲げ、チームワーク作りに努め、実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年4回の「ほのぼのカフェ」開催を近隣、ご家族、同系列事業所等に案内を配り参加を募っている。地域で行われる徘徊模擬訓練、市民清掃に参加し、地域住民との交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所に関する相談やホーム見学がいつでも出来ることを伝え対応している。小・中学校の社会学習で福祉交流を持って頂く体験受け入れを行っている。高校生ボランティア受け入れもやっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	Gホームの状況、行事等の報告(写真も提示)、サクラ便りの配布、勉強会の報告書も提示している。参加者からの活発な意見が聞かれるためサービスの向上に活かしているように努めている。また、ホームで調理している1品を試食して頂いて食の感想も参考にしている。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政からも参加して頂き、事業所の取り組みを伝えている。グループホーム連絡協議会の事務局を担当しているため空床情報の報告、研修の打診をお願いしてケアサービスの取組みに努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を設け同系列事業所やグループホーム内での勉強会を実施し、身体拘束のないケアを目指し実践している。居室で転倒、転落の危険性が高い利用者には畳、ジュータンを敷き対応の工夫を行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で開催される研修で事例や職員のストレスケアについて学び、事業所でも勉強会を開き外部研修も参考にしながら知識を習得し、防止に努めている。		

8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修で学ぶ機会をもち、必要性がある方が居られる時は関係者と話し合い活用していくことが出来るようにしていきたい。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所されるに当たり、重要事項、契約書を読み合わせて説明を行い、質問事項は回答を行い納得して頂いた上で署名、捺印、同意を頂いている。認知症でのリスクの説明も行っている。</p>		
10	6 <p>運営に関する利用者、家族等意見 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族、利用者からの意見、要望は全職員に報告を上げ、送りノートにも記録し、運営に反映させている。アンケート紙を設置し統計を取り運営に反映させている。</p>		
11	7 <p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議では、意見、報告、連絡、相談を行いチームワーク作りに努めている。ユニット責任者月例会を設け、スタッフ意見も報告し、グループホーム全体の運営に反映させている。</p>		
12	<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>研修参加や資格取得を目指していける様に情報提供を回覧したり、職員の緊急時には勤務調整の協力、各職員が得意とするところは発揮できる職場環境に努めている</p>		
13	<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の勉強会の資料作成から進行を各職員で担当して力を発揮できる場を作っている。また、各研修に参加できるように機会を作りスキルアップに努めている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修や、外部施設の実習生の受入れ、同業者の運営推進会議に参加して情報交換を行うことで気づきがあり、サービス向上の取り組みに努めている。</p>		

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前にはご本人とご家族に見学して頂き、困っている事や不安、要望等を聴くことで安心して入所して頂き、入所後はコミュニケーションを大切にして安心できる環境づくりに努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努め</p>	<p>入所前に見学して頂くことで生活様子をみて頂き、ご家族の意向、要望を傾聴し、入所後は状況報告や家族の思いを傾聴して、信頼関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>今までの生活状況を把握し、本人、ご家族の要望、必要としている支援を見極め、本人の望む生活が出来るようなサービス提供に努めている。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気の中で利用者の生活歴など踏まえ、残存機能を活かし、見守り、支えあい、信頼関係を築いていくようにしている。</p>		
19	<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族関係を大切にして頂くために面会、外出や外泊の機会を作るために相談をし、送迎の支援を行っている。ホームや関連事業所の行事には家族参加を募り、絆を大切に出来るように支援している。</p>		
20	<p>8 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族会や行事には親しい方も招待している。新年には神社に行きおみくじを引いて懐かしさを思い出して頂いている。外泊された時は馴染みの美容室に行かれたり、お点前を頂いてくる方もおられます</p>		
21	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個別に傾聴に心がけている。また皆で楽しく過ごせるようにゲーム遊び、歌など、孤立をしない工夫に努めている。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院時には面会に行き、ご本人、ご家族との関係を大切にしている。退所後は必要時に情報提供や近況を伺い、相談ごとには支援を行っている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるための、				
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>一人ひとりの思いを把握する為に希望や意向を会話や表情からも汲み取り、話しやすい雰囲気作りに努めている。家族からも希望や要望を聞いて把握を行っている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人から聞ける方は会話や行動の中から把握に努め、困難な方は家族から情報収集している。今まで他のサービスを利用されていた方は関係事業所から情報収集を行いサービスに努めている。</p>	
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の生活リズムを出来るだけ崩さないように努め、体調確認を行いながらご本人の出来る役割を見守り、把握に努めている。</p>	
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的なカンファレンス、家族参加の担当者会議を行い、本人の意向に出来るだけ近づく事が出来るように計画作成をしてスタッフが共有して実行している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日のケア実践の介護記録を行った。職員一人ひとりの質を高めるため情報収集、ケアの仕方など共有し、褥瘡予防でも実践し、支援を行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>外泊のために家族送迎が困難な方は送迎を行い、外泊時の注意事項や特変があるときには連絡してくださいという事を伝え外泊実現をすることが出来た。帰宅願望が強い方も家族協力を相談して送迎支援を行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>行事に必要な遊具、物品等を保育園、小・中学校から借用させて頂いたり、行事参加もして頂くことで交流を図ることが出来た。</p>	

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同系列に医療機関で2週間に1回の往診を受け、緊急時には適切な医療が受けられるように支援している。他科受診が必要な時は、本人、家族希望の医療機関なども確認して支援している。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同系列の医療機関へ毎朝業務日誌のFAXとナース訪問を受け、情報や気づきを伝え相談し、日常の健康管理を行い、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は面会に行く事で利用者が安心できるようにコミュニケーションを図って来るようにしている。また入院先と情報交換を行いグループホームでの対応可能な段階で病院から退院の連絡があった時は、いつでも受け入れが出来るように態勢を整えている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に重度、終末期について看取りの指針で説明を行っている。また、グループホームでの対応が困難になった時の今後の取り組みでは主治医との話し合いなど連携を図りながら支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時に備え、応急手当のマニュアルを作り、勉強会を行い演習を行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署要請により通報の仕方、避難訓練、消火器の使い方、救急処置の対応について指導を受け訓練を行っている。2ヶ月毎に自主防火訓練も行っている。非常持ち出し袋もスタッフルームに常備して中身の点検も行っている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重と把握をし、その人に合った声掛け、ケアの仕方を考えながら対応に心がけている。難聴の方には筆談、化粧の順序、更衣の順序がわからない方は番号を書いてわかりやすい様になっている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や要望があったとき、又、その思いが伝わってきた時は本人とコミュニケーションをとりながら、自分で判断できるところは自己決定に導いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生け花、塗り絵、ゲーム、歌など得意とされる場所は声掛けすることで積極的にされています。中にはマッサージ機に当たる事が日課の利用者、居室中心の利用者にはその人のペースを優先して支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で選んで着る利用者は自己決定、どの服を着ていいのかわからない利用者には一緒に選んでいる。散髪は母体に美容室から定期的に来られるので、ご本人に確認をし、カットして、清潔感を保てるように支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けの工夫や嗜好を取り入れ個々に合った食事形態で提供している。食事はテーブルに職員が入り会話しながら食事をしている。食前後のテーブル拭きや茶碗拭きも積極的に手伝われている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜、魚、肉、果物などバランスを考え栄養摂取が出来るように支援している。水分も一日の目標をおいて記録し体調管理を行っている。常食が困難な利用者にはミキサー食対応で支援している。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、自立で出来ない利用者は介助で清潔保持を行っている。口腔内の観察も心がけ口内炎の有無、歯科治療が必要な利用者は歯科受診も行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立の利用者、一部介助・全介助の利用者の排泄チェックを記録している。夜間Pトイレの利用者も日中はトイレ誘導を行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便パターンを把握し、日頃の食事にも乳酸菌なども摂取していただき、便秘予防に努めている。排便コントロールが難しい利用者は薬対応で便秘予防を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>体調確認で入浴の声かけを行っている。また、入浴拒否の利用者は、無理に入浴は行わず、入りたい時は教えて下さいと声掛けを行い支援している。汚染がひどい時は入浴日に関係なく対応している</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中ベッド休息される利用者は安否確認を行い、椅子で居眠りさされる利用者はベッドで休息の声かけを行っている。夜間は睡眠障害にならないように室温、照明にも気を配っている。使い慣れた毛布等で安眠の方もおられる。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬が変わった時は看護師の申し送りがあり処方箋の確認を行い、薬の本で調べることもある。誤薬を防ぐためにマニュアルを作成して服薬確認を行っている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>身の回りの整理整頓や洗濯物たたみ、洗濯物干しなどの手伝いで労いの言葉をかけることで喜びを感じて頂けるように支援している。気分転換で敷地内のコンビニに散歩を兼ねて買い物に出かける支援をしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している</p>	<p>季節の花見、遠足、外食支援を行った。家族で外出された時は自宅に立ち寄り仏壇に御参りをされたり、ドライブを兼ねた外食などされ、家族支援の協力があつた。協力して頂いたご家族にも感謝の気持ちを伝え今後の支援にもなっている。</p>		

50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買物希望の時は同行し、家族からの預かり金がある事を伝え購入できるように支援している。個人の出納帳に記録を行い、月末締めで家族に領収書、出納帳コピーを渡し確認して頂いている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や友人に本人自ら電話したいと申し出がある時は、電話をかけることができるように支援している。電話の取次ぎも行っている。手紙のやり取りも出来るように支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>折り紙で季節の花をみんなで作ったのを飾ったり、生け花をして頂き明るい雰囲気作りをしている。季節を問わず飾ることが出来る絵で卵の殻で作品を作って飾っている。共有のトイレ、脱衣室の洗面に手作りペーパータオル入れを設置している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースにソファを置いてTVを見たり、新聞を読んだりされている。また、ソファで横になりくつろがれている利用者も居られる。皆の輪が出来るように家具の配置も工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的環境が保てるように仏壇や位牌などを置かれたり、見たい時に見れるようにとTVを置いたり、家族の手作りや思い出の写真を飾り工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>朝・夜の一連の流れの手順がわからない利用者には手順を書いた手作りボードで声かけし自立に向けた支援に、転倒や転落のリスクが高い利用者にはベッド前に畳、ジュータンを敷いて衝撃を防止できる対応、トイレがわかるように表示したり、テーブル脇に杖立てを設置し工夫を行っている。居室での行動範囲に制限がある方は身の回りの物が取りやすい位置にご本人の希望位置に置いている。</p>		

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない